

1 単元の構想と単元づくりのポイント

(1) 単元の構想

今年度の総合的な学習の時間を始めるにあたって、4年3組が総合で大切にしたいことについて話し合う中で、子どもたちは「地域の役に立つこと」、「地域とつながり、地域の輪をつくること」を大事にしたいという思いをもっていることが分かった。地域のつながりをつくる活動に取り組んでみたいと考えた子どもたちは、地域の福祉に関わる活動に取り組んでいる地域包括支援センターや民生委員の方々のお話を聞く機会をもった。すると、小針では「高齢化が進み、お年寄りが家の中に閉じ込められがちになったり、寂しさを感じたりしていること」、「新型コロナウイルスの影響により、高齢者を支える取組である地域の茶の間等の活動が実施できていないこと」が分かった。そこで、子どもたちは4年生の総合で、「地域の人と人を結ぶ地域の茶の間を自分たちで開いてみたい」と思いを高めていった。

この学習活動を通して、小針に住む高齢者と会話をしたり、同じ場で共に活動をしたりすることで、多様な年代の方々の日々の暮らしへの願いや地域への思いを深く感じ取ることが期待できる。また、地域の多世代の交流の場づくりの活動を行う際には、行政の方々と共にプロジェクトに取り組むことで、交流を生み出すための工夫やプロジェクトにかかる思いを知ることができる。さらに、コロナ禍で多世代の交流を図る活動を行う際に生じる様々な課題にしっかりと向き合い、地域のつながりの再生を目指し、地域や行政の方と共に本気で小針の一員として貢献できる方法を考え続ける子どもたちの姿を期待している。

(2) 単元づくりのポイント

① 本気を引き出す課題の設定

子どもたちが自分たちの解決すべき切実な課題として高齢者の暮らしに関わる問題を捉えることができるように、地域包括支援センターの方に地域の少子高齢化のデータやそれらの課題に対する具体的な取組の現状を示しながら、子どもたちとやりとりしていただく機会を設ける。

② 体験的な活動(情報の収集)と表現の充実

子どもたちが行政の方々と共に目標の達成に向けた交流の場づくりを行っていることを実感できるように、行政の方々とのミーティングの中で意見を交流したり、自分たちで交流会の計画・実施→振り返り→改善を繰り返したりする機会を設ける。

③ 対話(関わり)の活性化

子どもたちが自分たちの話合いの流れや論点を意識したり、話合いをまとめる方法(思考ツール等)を選択したりしながら話し合うことができるように、授業の始まりに「話合いのゴールとプロセス」を決定する時間を設ける。

2 単元名 : みんなの茶の間プロジェクト

探究課題: 身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々

3 単元目標

小針で暮らす高齢者の方と関わったり、交流の場をつくったりする活動を通して、地域の高齢者の暮らしを支える取組に尽力する方々の思いや地域の交流の場を継続する意味に気づき、新型コロナウイルスの影響が残る中、世代を越えてまちに住む人々が交流していくために地域の一員として自分にできることを考え、行動しようとする。

4 単元の評価規準 <育成を目指す資質・能力>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域で起きている少子高齢化の現状と、新型コロナウイルスの影響によって高齢者の暮らしを支える取組の実施が困難になっている状況に気付いている。</p> <p style="text-align: center;"><関係性></p> <p>②地域には、社会の状況に合わせて様々な取組を行うことで、高齢者の暮らしを支える取組をしている方々がいることを理解している。</p> <p style="text-align: center;"><多様性></p> <p>③高齢者の交流の場をつくる活動を通して、高齢者だけではなく、多世代が関わりをもち、地域全体の交流を目指し、継続することに意味があることを理解している。</p> <p style="text-align: center;"><地域性></p>	<p>①行政の担当者へのインタビューから、高齢者を取り巻く状況をつかみ、交流会の実施のための課題や必要な取組について、見通しをもっている。</p> <p style="text-align: center;"><課題設定・情報収集></p> <p>②地域の交流の場でこれまでに行われてきた様々な取組を分類し、人と人との距離や交流の仕方に着目して、比較することで、自分たちが実施する交流会のプログラムを決定している。</p> <p style="text-align: center;"><整理・分析></p> <p>③アンケートで収集した情報をもとに、自分たちが実施した交流会の課題を明らかにして、交流会を継続していくための改善点をプレゼンテーションにまとめている。</p> <p style="text-align: center;"><まとめ・表現></p>	<p>①地域の交流の場をつくる活動を通して、高齢者の暮らしを支える行政の方々に関わりながら、現在の状況に合った最適な実施方法を追究しようとしている。</p> <p style="text-align: center;"><思い・願い></p> <p>②高齢者の方々が安心して交流できる場を目指して、計画を実施するための話合いを繰り返して行い、友達と適切に役割を分担して交流会の準備を行っている。</p> <p style="text-align: center;"><協働></p> <p>③地域における交流の場づくりの活動を行うことで、高齢者の交流の再開に役立つことができた自分自身に気づき、地域の一員として世代を越えた交流のために継続してできることを考え続けようとする。</p> <p style="text-align: center;"><自律></p>

5 単元計画 (全70時間)

小単元の学習課題 (実施時期・時数)	○学習活動	知	思	態	●関連する教科等
1 私たちが小針のまちのためにできることは何だろう (5月・12時間)	○これまでの総合的な学習の時間を振り返り、総合的な学習の時間の学び方をつかむ。 ○身の回りの疑問や問題に感じていることを出し合い、小針のためにできることを見付ける。 ○集めた情報をもとに何ができるかを話し合い、これからの活動を考える。	①			●エクスタチャートを用いて季節で感じたことを整理した経験を想起して、映像資料を視聴して感じ取った総合で大切にしたいことを4つの観点で整理する。国語「季節の言葉」
2 関わり合う機会を増やすためにできることは何だろう (6~7月・13時間)	○自分たちが暮らす小針が抱える課題や取組を知るために、地域包括支援センターや社会福祉協議会の方々から、社会福祉に携わる立場として把握している地域の現状を聞く。 ○集めた情報から、今後自分たちが解決すべき課題とその方法を決める。 ○高齢者との関わり合いの機会をつくる活動で何を行うべきか、活動の種類とその順序を考える。		①		
3 小針の茶の間プロジェクトを実現するために必要なことは何だろう (9~10月・15時間)	○自分たちの交流会で参考にすべき取組を見つけるといった目的をもって、西区役所からいただいたパンフレットをもとに、過去に実施されてきた「地域の茶の間」の取組について調べ、「お話」「運動」「ゲーム」「物作り」等の視点で分類する。 ○民生委員の方々と共に友愛訪問を実施し、地域の茶の間を開く上で配慮すべきことや、どのような活動が好まれる傾向があるのか分析する。 ○現在の状況において、自分たちが実施したい中心となる活動を「準備」「楽しめる」「交流」という3つの条件で比較し、実現の可能性があるものを選択する。 ○自分たちで選択した取組を地域包括支援センター、社会福祉協議会を含む、関係機関の方に提案し、それぞれの取組の実現の可能性について協議を行い、決定する。	②	②		●折れ線グラフの傾きに注目して、変化を読み取った経験を想起して、西区の年代別の人口の増減を読み取る。算数「変わり方がわかりやすいグラフを調べよう」
4 小針の茶の間プロジェクトを実施しよう (11~12月・15時間)	○「小針の茶の間プロジェクト」の計画(プログラム・役割分担等)を立てる。 ○クラスで各プロジェクト(会場設営・広報係・道具準備・時間管理・衛生管理・接客など)の分担を行い、それぞれの準備を進める。 ○決定した活動内容をもとにプレ交流会を行い、関係者の方々からいただいたアドバイスもとにして、各プロジェクト単位で修正点を見つけ、計画の見直しを行う。 ○小針の茶の間を実施する。参加していただいた方に、活動内容に関わるアンケートを書いていただく。	②		②	●学級集会で行う遊びを決める際に用いたピラミッドチャートを活用し、「準備」「楽しめる」「交流」の3つ条件で活動内容を比較する。特別活動「学級集会をしよう」
5 小針のまちでつながろうプロジェクトを続けるために (12~2月・15時間)	○アンケートをもとに、小針の茶の間によって、 <u>地域のつながりをつくるという目標に近づくことができたか話し合い、これからの自分たちの活動の方向を定める。</u> <本時> ○地域包括支援センターや社会福祉協議会、民生委員の方々と共に、持続可能な活動の存続の仕方について話し合う。 ○西区役所健康福祉課の方に、地域の方と協働して、持続可能な「小針の茶の間プロジェクト」の提案を行う。 ○これまでの活動を振り返り、これからの自分が小針で続けていくことについて考え、伝え合う。	③			●アンケート調査を行う際のポイントを想起し、記述式の項目と選択式の項目を組み合わせたアンケートを作成する。国語「アンケート調査の仕方」
			③		●これまで実施して分かった地域とのつながりをつくるための仕組みや方法を、表やグラフなどの資料を見せながら、聞く人に分かりやすく話す。国語「調べて話そう、生活調査隊」

6 本時の計画（56時間／70時間）

(1) 本時目標

「みんなの茶の間」の参加者からいただいたアンケートを根拠にして、「よさ」「課題」「改善点」の三観点で交流会の活動を評価し、自分たちが行う改善策を選択する活動を通して、地域のつながりをつくるためには、一人一人に合わせた取組を行うことが必要だと気付く。

(2) 本時に向かう児童の実態

「みんなの茶の間」の参加者からいただいたアンケートを分析することで、「もう一度開催して欲しい」という肯定的な意見があることや、参加したくても出られなかった方がいることに気付いている。今後の自分たちの活動の方向性については、個々がもっている考えに隔りがある。

(3) 本時のしかけ

地域のつながりをつくるためには、一人一人に合わせた取組を行うことが必要だと気付くことができるように、「2回目のみんなの茶の間を開くべきかどうか迷っている」という趣旨の発言を取り上げ、「またみんなの茶の間を開くべきなのか」をグループで話し合う時間をとる。

(4) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価・〇手立て・くしかけ
<p>導入 1. 前時の学習を振り返り、本時の課題を確かめる。 (2分)</p>	<p>C1: 前は、アンケートを個人で分析しました。 C2: 今回は、みんなの茶の間の目標は達成できたかどうかについて話し合います。 T1: ちなみに「みんなの茶の間」の目標って、改めて教えてもらってもいいですか？ C3: 「楽しんでもらうこと」と「仲良くなること」です。 T2: ありがとう。では、今日の学習課題は、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><学習課題> 「みんなの茶の間」の目標は達成できたのか？</p> </div> <p>でよいですか。 C4: はい。いいと思います。</p>	<p>○授業の前にクラスの友達の考えをロイロノートで見合う時間をとる。 ○子どもたちが学びを自分たちで自覚して進めることができるように、日直が自分の言葉で本時の学習課題を学級に伝える。</p>
<p>展開 2 学級全体で目標が達成できたかどうかについて話し合う。 (15分)</p> <p>3. メリ・デメ表を用いて、グループで考えを交流する。 (10分)</p>	<p>T3: それでは、皆さんの考えを教えてください。 C5: 私はできたと思います。折り紙でおしゃべりしながら、お互いに教え合うことができたからです。 C6: 私もできたと思います。グラグラタワーで、一緒に協力してゲームをして、仲良くなれたからです。 C7: ぼくもできたと思います。全部のチームのアンケートを見ても、「楽しかった」「仲良くなれた」という意見のアンケートが多いからです。 C8: ぼくもできたと思います。〇〇さんから、実際にもう一回開いて欲しいと言われたからです。 C9: 私も直接、すごく楽しかったからもう一回開いて欲しいという言葉ももらいました。これは、成功した証拠だと思います。 C10: でも、ちょっと課題もあって、私たちのグループが友愛訪問で招待した方は来られていませんでした。 C11: 私たちのグループも同じで、招待状で誘った方が当日はいらっしやるできませんでした。 T4: なるほど、ちょっとここまでの話をまとめると、来てくださった方々には十分に満足してもらえたということはOKかな。 C12: そうそう、とっても楽しんでもらえたし、仲良くもなることもできた。 T5: だけど、来られなかった人もいたということなんだね。どうして来られなかったのか、改めて理由を確かめてみますか。 C13: インタビューの資料を見直してみると、〇〇さんは、足が不自由なことが理由に書いてあります。 C14: 〇〇さんは、そもそもあんまり人と会うこと自体が苦手だというインタビューだったよ。どうしたらいいんだろう。 C15: うーん、もう一回開いたら、来られなかった人たちも来てくれるのかな。もう一回、開くべきかどうかは迷うなあ。 T6: 迷いを整理すると、もう一度開いて欲しいという意見もあるけれど、そもそも来られない人もいるということだね。そう考えると、私たちは2回目を開くべきなのかな。少し、グループで考えてみる時間をとりますか。 <ホワイトボードを用いた3人組での話し合い> T7: それではある程度の結論は出せましたか。ロイロノートで、記録リーダーさん提出お願いします。自分のグループ、全体の</p>	<p>○子どもがそれぞれの立場を意識しながら、話し合いに参加することができるように、発表された意見について「できた」「課題と改善点」に分けて板書する。 ○黒板で子どもの発言を整理する際に、多くの子どもたちが重要だと感じている事実を可視化するために、発言が多い部分については、アンダーライン等で強調して表すようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「もう一度、みんなの茶の間を開くべきかどうか迷っている」という趣旨の発言を取り上げ、「2回目のみんなの茶の間を開くべきなのか」をグループで話し合う時間をとる。 くしかけ</p> </div> <p>○開く、開かないという</p>

<p>4. クラス全体で、これからの方向性について話し合う。(13分)</p>	<p>グループの話合いの結果を見て、今の自分がどう考えているか教えてもらえますか。</p> <p>C16:まず、来たい人のことを考えると、もう一度開くのはいいことだとは思いました。</p> <p>C17:同じ意見なんだけれど、少し違って、小針でやっている地域の茶の間につなげていくことが重要だと思う。そうすることで、ずっと通ってもらうことができるからです。</p> <p>C18:私たちは、来られなかった人を中心に話し合っていて、少なくとも開くことは違うと思っています。たとえもう一回開いたとしても、結局は来られないからです。</p> <p>C19:私はやっぱり来られなかった理由が一人一人違うわけだから、その人に合わせたことをやっていく必要があると思う。</p> <p>C20:参加したい人と参加できなかった人に対して、それぞれやることを変えていくってことなのかな。</p> <p>C21:確かにそうだと思う。だけど、友愛訪問をやろうとすると、もう私たちだけでは実現することが難しいと思う。Aさんや民生委員さんの協力が必要じゃないかなと思う。</p> <p>T8: ちょっと、方向性が見えてきたのかな。自分たちが茶の間を開くのではなく、参加したい方々については茶の間につないでいくこと、参加できない方々については私たちだけではなく、地域の方の力を借りていくことなのかな。</p> <p>C22: はい、民生委員さんや包括支援センターのAさんにも、相談した方がいいと思います。</p> <p>T9:じゃあ、ここまでの話合いをまとめていいですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><まとめ> 今回の茶の間の目標は達成できた。次に向けて、また参加したい方々には、地域の茶の間を紹介する。参加できなかった方々については、民生委員さんやAさんに相談する。</p> </div>	<p>2つの視点を明確に意識して、それぞれを比較することができるように、思考ツールのモデルとしてメリ・デメ表を示す。</p> <p>○参加したい方、参加できなかった方という2つの立場に分けて対応を考えるよさに気付けるように、それぞれへの対応を考え始めているグループのホワイトボードを紹介する。</p>
<p>【終末】 5. 学習を振り返る。(5分)</p>	<p>T10:では、最後に振り返りを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><振り返りの視点> ①分かったこと ②学び方でよいと思ったこと ③自分に生かしていきたいこと</p> </div>	<p>○自らの学びを省察することができるように、振り返りの3つの視点を示す。</p>

7. 本時の評価規準

2回目の「みんなの茶の間」を開くべきなのかを話し合う活動を通して、地域とつながりをつくる方法は、交流会を開くだけではなく、一人一人の事情に対応することや地域全体で担っていくべきことだと気付いている。【発言・振り返りの記述】

8. 参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』

9. 板書計画

課題 みんなの茶の間の目標は達成できたのか？

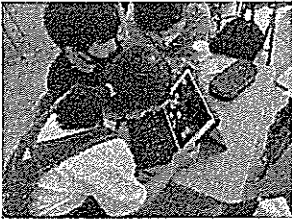
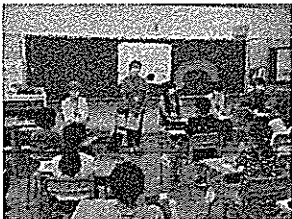

P (できた)	M&I (課題と改善点)
<p><楽しんでもらう></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「まだ開いてほしい」 ◎「まだ来たい」 ◎ 楽しい…28票 ◎「今日、来られてよかったよ」 ◎「楽しかったよ」参加者の笑顔 <p><仲良くなる></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎お互いに教え合えた ◎協力して遊べた ◎「ありがとう」とおたがいに伝え合うことができた ◎いっしょに喜べたことがとてもうれしかった 	<p>△さそった方が来られていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ○○さん…足が不自由 ○○さん…人前が苦手 ○○さん…寒さがきびしい <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>一人一人に理由がある。 もう一回開いたら、来られるのか？</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>2回目の茶の間を開くべきなのか？</p> </div>




メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ◎また楽しんでもらえる ◎来られる人は、また来てくれる 	<ul style="list-style-type: none"> △結局、来ることができない人は参加することができない △それぞれに、来られない理由も違う
<p>2回目は、開くべきではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○来てくれる人…地域の茶の間へつなぐ ○来られない人…友愛訪問？ →相談する 	
<p>まとめ</p> <p>今回の茶の間の目標は達成できた。</p> <p>次は、来てくれる人、来られない人のそれぞれに対してできることを考えていく必要がある。</p>	

①学習指導案 → 別紙参照

②事業実施報告書詳細

学校名 新潟市立小針小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1 2	小針小学校	小針のまちのためにできることを見付けるために、身の回りの疑問や問題に感じていることについて話し合った。そこで集めた情報を基に自分たちに何ができるかを話し合い、これからの活動の方向性を考えた。		これまでの総合学習を振り返ることで、「地域のために活動する学習」、「クラスの仲間や地域の方と協力して行う学習」であることに気付いた。身の回りで起きている新型コロナウイルスによる関わり合う機会の減少の問題が小針でも同様に起きているのか調べたいという思いをもった。
1 3	小針小学校	自分たちが暮らす小針のまちが抱える課題や取組を知るために、地域包括支援センターや社会福祉協議会の方々から、社会福祉に携わる立場として把握している地域の現状を聞いた。集めた情報から、今後自分たちが解決すべき課題とその方法を決めた。		地域包括支援センターや社会福祉協議会の方々へのインタビューから、新型コロナウイルスの影響により、高齢者の関わりをつくる事業の実施が困難となっていることに気付いた。その上で、地域の高齢者の暮らしの問題に対して、現在の状況に適した交流の場を設定することで、高齢者の方々が関わり合う活動に取り組みたいという思いをもった。
1 5	小針小学校	民生委員の方々と共に高齢者の自宅訪問を実施し、地域の茶の間を開く上で配慮すべきことや、どのような活動が好まれる傾向があるのか分析した。自分たちで選択した取組を健康福祉課や社会福祉協議会を含む、関係機関の方に提案し、それぞれの取組の実現の可能性について協議を行い、決定した。		西区健康福祉課の方からいただいた資料から、高齢者の自宅訪問を行った経験を基に、「地域の茶の間」を実現するための課題やプロジェクトの進め方を知った。その上で、自分たちが実施したいと考えている活動を3つの条件で比較することによって、現在の状況における最適な活動を行っていくための見通しをもった。

15	小針小学校	<p>「地域の茶の間」の計画を立てた。役割分担を行い、それぞれの準備を進めた。決定した活動内容をもとにプレ交流会を行った。関係者の方々からいただいたアドバイスを基にして、各プロジェクト単位で修正点を見付け、計画の見直しを行った。感染症対策を十分に行った上で、地域の方を招き、「地域の茶の間」を小針小学校内で行った。</p>		<p>行政の方々と共にプロジェクトを計画し、実施することで、地域の高齢者の暮らしを支える活動を行う方々の知識や企画の進め方、仕事に対する真摯な態度を感じ取ることができた。新型コロナウイルスの影響がある中で、話し合いを重ねる過程で、自分たちが理想とする活動と実際に感染症対策に配慮した上で実施できる活動との隔たりに気付き、参加してくださる方々が安心して活動を行うための仕組みづくりの重要性に気付いた。</p>
15	小針地区	<p>「地域の茶の間」に参加していただいた方々のアンケートを基に、これまで行った活動によって、課題の解決に近付くことができたのかどうかをテーマに話し合いを行った。地域包括支援センターや社会福祉協議会、民生委員の方々と共に、持続可能な活動の存続の仕方について話し合った。これまでの活動を振り返り、これからの自分が小針で続けていくことについて考え、伝え合った。</p>	 	<p>「小針の茶の間」に参加した方々からいただいたアンケートの反応をもとに自分たちの活動の意味や価値を振り返った。自分たちの地域にはつながりをつくらうと努力している方々がいること、また自分たちの思いや願いを実現するためには様々な世代が協働し、参画する必要があることに気づき、これからはまちのために自分ができることを続けていこうという思いを高めることができた。</p>

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

自分たちが住むまちの良さと課題を子どもたちが捉え、新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、まちの活性化のために実現可能なことを考え、実践していくことをねらいとした。その際、子どもたちが自分たちの解決すべき切実な課題として高齢者の暮らしに関わる問題を捉えることができるように、地域包括支援センターの方に地域の人口減少・少子高齢化のデータやそれらの課題に対する地域包括支援センターの具体的な取組を示しながら、子どもたちとやりとりしていただく機会を設けた。また、子どもたちが行政の方々と共に目標の達成に向けた交流の場づくりを行っていることを実感できるように、行政の方々ととのミーティングの中で意見を交流したり、自分たちで交流会の計画・実施→振り返り→改善を繰り返したりする機会を設けた。

(2) 実施にあたり苦労した点

新型コロナウイルスの影響がある中で、感染症対策を十分に行いながら、実際に交流の場を設定し、開催することがとても難しかった。子どもたちと共に、行政の方々と何度も

打ち合わせを行い、知恵を出し合いながら、参加者も自分たちも安心して参加することができる内容や環境づくりに努めた。

(3) 児童の反応

小針に住む高齢者と会話をしたり、同じ場で共に活動をしたりすることで、多様な年代の方々の日々の暮らしへの願いや地域への思いを深く感じとることができた。また、地域の様々な世代の交流の場づくりの活動を行った際には、行政の方々と共にプロジェクトに取り組むことで、交流を生み出すための工夫やプロジェクトにかける思いを知ることができた。この活動を通して、コロナ禍で多世代の交流を図る活動を行う際に生じる課題にしっかりと向き合い、地域のつながりの再生を目指し、本気で小針の一員として貢献できる方法を考え続ける子どもたちの姿を見ることができた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

児童と共に担任が地域の方々と共に「地域の茶の間」の開催準備を行うことで、地域住民との積極的な関わりをもつようになり、地域からの信頼を築く結果につながった。行政や関係機関との連携を図ることで、実社会と学校とがつながって子どもたちの学習活動を進めていく、学習活動の流れを学校内で構築することができた。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

- ・地域の広報誌で今年度の「小針の茶の間」の様子が紹介された。
- ・「小針の茶の間」の活動が継続されることを地域の方々が強く望んでいる。子どもたちも、この活動を継続していきたいと願っている。感染症の状況に十分注意を払いながら、地域とのつながりをつくる活動の方法を今後も継続的に探っていく。